■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

Enhancing Value for Stakeholders

社会とともに

次世代のために、社会の持続可能性に貢献する

日産は、利益ある成長を遂げながら、将来にわたって持続可能な企業であることを目指し、企業市民として責任を果たすべき社会の持続可能性にも貢献していきたいと願っています。そして、日産が掲げるビジョン「人々の生活を豊かに」のもと、次の世代に対して、より豊かな未来を引き継ぐために、社会との共生に根ざした、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

グローバル企業としての取り組み

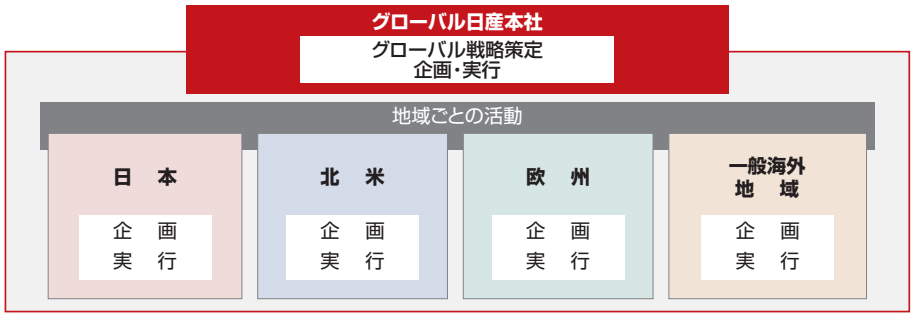
より良い企業市民として果たすべき支援、日産の社会貢献活動

日産は、社会の持続可能性を実現するため、「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」といった分野を中心に、企業市民として果たすべきさまざまな支援活動を行っています。実際の活動にあたっては、社会の持続可能性への貢献という目的をグローバルに共有し、それぞれの国や地域の実情に配慮した活動を展開しています。事業所近隣では、地域への協力、雇用の創出など経済的な貢献はもとより、社会的貢献も行うことで、地域コミュニティとの強固なパートナーシップの構築に努めています。さらに、国や地域を越えて、グローバル企業として取り組むべき課題には、グローバルな考え方と各地域に最適な活動のバランスを取りながら、日産らしい社会への貢献となるよう心がけています。

Link

社会貢献の取り組みに関する詳しい情報は、次のホームページに記載しています。あわせてご覧ください。
http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/

グローバル推進体制



■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

日産では、社会貢献活動への取り組みにおいて、以下のような点が重要と考えています。

1:社員の自発的な参加意識を育てる
社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの社員が企業市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育んでいきます。

2:会社の強みや特性を生かした活動を考える
金銭的な支援だけではなく、ノウハウや日産関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。

3:専門性のあるNPOやNGOとの協働
日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO(民間非営利組織)やNGO(非政府組織)と連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

日本での社会貢献活動

次世代を担う子どもたちの創造性を育む「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と「ニッサンゆかいな絵本と童話展」

日産では、次世代を担う子どもたちに夢や創造性あふれる童話や絵本を届けようと、1984年から(財)大阪国際児童文学館と連携して、アマチュア作家を対象にした「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を実施しています。2006年度に実施した第23回のグランプリでは、童話応募作品2,108編、絵本応募作品553編の中から38の入賞作品を決定し、表彰しました。

第1回より大賞作品を出版し、公立図書館(約3,550館)や日産の事業所近隣の幼稚園など(約700園)に寄贈を行っているのが本グランプリのもうひとつの特徴で、現在までに出版された作品の寄贈累計冊数は約14万3,000冊にのぼります。

また、日産はこどもの城((財)児童育成協会:東京都渋谷区)と共催し、こどもの城のギャラリーにおいて、15回目となる「ニッサンゆかいな絵本と童話展」を開催しました。本イベントは、社会貢献活動の重点分野として取り組む「教育への支援」の一環として、1992年より企画・実施してきたもので、子どもたちの好奇心や創造力、思いやりを育むことを目的に、童話や絵本にちなんださまざまな展示やワークショップを行いました。

第23回ニッサン童話と絵本のグランプリ表彰式

NPOとのパートナーシップで若者の未来を応援、「日産NPOラーニング奨学金制度」

日産は、企業とNPOとの協働プログラムの一環として、1998年より「日産NPOラーニング奨学金制度」を実施しています。このインターンシッププログラムは、NPOでの活動体験を希望する大学生・大学

「日産NPOラーニング奨学金制度」第9期修了生

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

院生を公募し、活動実績に応じて奨学金を支給する、優れた人材の育成を目的としたプログラムで、NPOでの体験を通じて、創造性や考える力、行動する力を育成することを狙いとしています。9回目となる2006年度は、海外を含む32大学、68名の応募の中から、書類選考・面接により選ばれた18名の奨学生が、環境、国際交流、文化・芸術、福祉など16の受入団体で活動を行いました。

教育現場と連携して日産の環境への取り組みを紹介

日産は、2007年1月、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）・早稲田大学エコフューチャー委員会共催の公開講座「環境ボランティア学校」を開催しました。これは、追浜工場や総合研究所において日産の環境への取り組みについて学ぶツアーで、講義、工場見学、FCV（燃料電池車）試乗、技術展示・実験室見学を行い、早稲田大学の学生を中心とした37名に学びの場を提供しました。

2007年3月には、横浜市立本町小学校と連携し、FCVを活用した環境出張授業を実施しました。年間を通じた総合的環境学習を重んじる本町小学校と教育への支援を重点分野とする日産が合意し、実現に至った活動で、本町小学校との取り組みは、2007年度も継続的に行う予定です。

燃料電池車を興味深く観察する小学生

社員一人ひとりの社会参加を奨励する「日産ボランティア活動資金支援制度」

日産は1996年から、社員のボランティア活動や社会参加を資金面で支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」を導入しています。これは社員が寄付を行う場合、会社からも同額の寄付（マッチング・ギフト）を提供するほか、ボランティア活動や物品購入の費用が不足している際に、その資金を支援する制度です。日産は、社員による自主的な社会参加や寄付活動を奨励し、社会貢献に関心のある社員が積極的に活動に取り組める環境づくりを推進しています。

地域との協働により開催、全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ 2006」

日産追浜工場は、2006年12月1日から3日間、地域の関係諸団体とともに、全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ 2006」を開催しました。この大会は、追浜工場の敷地や周辺の公道を利用した日本陸上競技連盟認定コースで開かれる、地域活性化と障害者スポーツの普及を目的とした、企業と地域の協働運営が特色の車いすマラソン大会です。

車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ」

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

7回目を迎えた今大会は、日本トップレベルの選手を含む約210名の選手が参加、フルマラソンとハーフマラソンで構成されたロードレースのほか、短距離タイムレースやジュニアを中心とした初心者向け講習会も実施しました。

また、この大会を記念して社員募金を実施し、障害者スポーツ振興のために、障害者陸上競技団体などに寄付しました。

環境、認知科学、理科・環境教育の三本柱で社会に貢献する「日産科学振興財団」

日産科学振興財団（理事長：カルロス ゴーン）は、環境研究、認知科学研究、科学・技術教育研究の3分野を重点化し、活動しています。環境研究においては目覚しい研究成果がありました。光合成酵素の一部配列を遺伝子導入することにより、炭酸ガス識別能力の向上を世界で初めて実証し、植物の炭酸ガス吸収能力向上の可能性を見出しました。この成果は、地球温暖化問題解決のための有力な手段になる可能性があるとともに、食糧問題への貢献、あるいは植物増産に伴うバイオエタノール生産能力の向上によるエネルギー問題への貢献が期待できる画期的なものです。

2006年度は、新たに2つの教育プログラムを開始しました。1つめは、社会の持続性を考慮して政策判断や社会的合意形成ができるアジアの将来のリーダー育成を目指す「Nissan Workshop in Intensive Program on Sustainability」。2006年12月、東南アジアなどの大学院生20名が参加し、「2050年のクルマ社会とは」をテーマに社会の持続性・多様性の理解を深めました。2つめは、科学的知識を積極的に活用して社会と技術のイノベーションを推進するリーダー育成を目指す「Nissan Leadership Program for Innovative Engineers」。博士課程後期の学生から助教授までの大学関係者や企業の中堅技術者20名が参加し、グループワークを通じて、課題実現のための方法論や事業計画を提案書としてまとめました。これらの教育プログラムは2007年度も実施する予定です。

「Nissan Leadership Program for Innovative Engineers」での対話セッション

北米での社会貢献活動

学生リーダー育成プログラムを通じた地域貢献

北米日産会社は全米の大学生を対象とした「Nissan Student Government Leadership Program」を実施しています。このプログラムは、HBCU（Historically Black College and Universities）と呼ばれるアフリカ系アメリカ人の教育を第一とする大学の学生組織リーダーをミシシッピ州トゥガルー大学に招き、通常はフォーチュン・トップ500社の企業幹部に対して行われる高水準のリーダー教育・研修を提供する、という革新的なものです。3年目を迎えた2006年は、HBCUの学生組織で会長や副会長を務める優秀な学生100名以上を招きました。

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

講義では「チームづくり」や「リーダーが直面する問題」などのテーマが取り上げられ、学生たちは自己認識や自己管理の大切さを学び、社会政治学的な視点や人間関係への理解を深めました。プログラム期間中、北米日産会社の役員やマネージャーが「メンター（助言者）」として参加し、学生たちの良き相談相手になりました。また学生たちには、組織のトップを務めるうえで役に立つ「リーダーシップ・ツールキット」が配布されました。

このほか、著名な文化人や作家、HBCUの学長、有識者、政府関係者などをゲストスピーカーとして招へい。講演を聴いた学生たちは、自分のコミュニティに関わるだけでなく、その指導者になるのだという思いを強くしていました。

日産は数十年にわたり、さまざまなプログラムを通じてHBCUを支援してきました。学生組織のリーダー育成プログラムは、「人々の生活を豊かに」という企業ミッションの一環としてコミュニティ・リーダーを育て、地域社会に貢献したいという日産の姿勢をあらわしています。

世界自然保護基金（WWF）とのパートナーシップ

地球の未来を担うのは、環境や科学、工学、ビジネス、公共政策などの分野で豊かな才能と高い志を持つ学生たちであるといえます。そこで、北米日産会社と世界自然保護基金（WWF）は、全米の大学の若きリーダーたちがいずれ環境保護の有力な担い手になるよう、協力することを決めました。

「Nissan-WWF 環境リーダーシップ プログラム」は、将来の環境リーダーとして期待される人材に、地球が直面している問題についてより深く学んでもらおうという試みです。具体的には、環境問題に取り組む科学者や政策立案者、経済人との会合、リーダーとしてのスキル開発、科学的なフィールド調査の体験、全米各地の仲間との学際的なネットワークづくりなどを行います。

北米日産会社はこの連携を通じて、アフリカのナミブ・カルー環境保全地域や、アマゾン川流域、米国南東部の河川およびその流域など、WWFが優先的に取り組んでいる地域での活動を支援しています。また、アフリカの野生生物保護管理官への奨学金制度を支援するため、南部アフリカ野生生物カレッジに10万ドルを寄付しました。

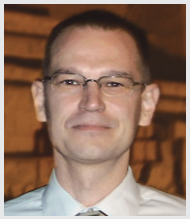
2006年は18人の学生がプログラム対象者として選ばれ、1人あたり5,000ドルの奨学金を受け取りました。学生たちはこのほか、6月にワシントンD.C.で開催された4日間の環境サミットや、8月初めに米国の非政府組織「アースウォッチ・インスティテュート」が主催した南アフリカ調査隊に参加しました。

将来の環境リーダーを育てる「Nissan-WWF 環境リーダーシップ プログラム」の参加者

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

Messages from Our Stakeholders
ステークホルダーからのメッセージ

かけがえのない自然環境を守るために —WWFと日産



世界自然保護基金（米国）
自然保護リーダーシップ
プログラムダイレクター
ショーン マーティン 氏

世界自然保護基金（WWF）と北米日産会社は、自然保護活動を推進するため、米国内を含む世界各地で共に活動しています。そのひとつが米国の大学生を対象とした「Nissan-WWF 環境リーダーシップ プログラム」。プログラムを通じて環境問題への見識を深め、将来の有力な担い手となってもらおう、というのが目的です。参加した学生たちは「私生活でもキャリアの面でも大いに影響を受けた」と語っており、私たちは彼らが将来、自然保護活動に大いに貢献してくれるものと期待しています。

このほか北米日産は、アフリカの環境保全地域を管理する人びとへの奨学金を支給したり、アメリカ南東部河川流域の生態系を守る地元の非営利団体の活動を助成するWWF基金を支援するなど、さまざまな活動を実施。ブラジル・アマゾン川流域の広大な自然を保護する私たちの活動にも協力しています。北米日産が昨年に引き続きWWFとのパートナー関係を継続してくれることをたいへんうれしく思っています。

欧州での社会貢献活動

仏カンヌで人道支援のためのオークションに協賛

2006年5月にフランスで開催したカンヌ国際映画祭。フランス日産はクリスチャン・ディオール、ロイヤル・パーム、スワロフスキーなどのブランドと提携し、映画祭の期間中に開かれた人道支援オークション「ガラ・フォー・ライフ」に協賛しました。国連児童基金（ユニセフ）が主催するこのオークションは、出品された商品すべてに買い手がつくほどの大成功を収め、収益金11万ユーロがセネガルの11の学校を支援するためユニセフに寄付されました。

カンヌ映画祭ではほかにも多くのイベントがあるにもかかわらず、オークションにはカーメン チャップリンやイーサンホーク、それにイタリアのサヴォイア家に嫁いだフランスの女優クロティルド クローといった映画スターなど200名近い著名人が集まりました。

この特別な夜のフィナーレを飾ったのが、フランス日産が出品した「マイクラC+C」でした。フランス日産は2003年からユニセフに協力しています。

カンヌ国際映画祭でのチャリティオークションに「マイクラC+C」を出品（フランス）

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

学生の就職活動支援のため、仏Terre de Talentsワールドツアーに協力

フランスの名門ビジネススクールの学生5名が、2006年9月～2007年6月まで、世界各地の主なリセ（フランスの国立高等中学校）を訪問しました。リセの生徒たちに、就職試験の面接に際して役立つトレーニングを行うことが目的です。

この教育プロジェクトはフランスの非営利団体「Terre de Talents」が企画したもの。欧州日産自動車会社は資金援助に加え、指導面でも協力しています。今回は欧州日産広報部の社員がボランティアで審査官の一員として加わり、ロンドンのリセを訪問して学生たちのキャリア・プランや面接試験に関するアドバイスを行いました。欧州日産は、学生たちが将来の就職に備えるうえで、企業が一定の役割を果たす必要があると考えています。

オーストリア、ウィーンにある
フレンチ・リセを訪問

ルーマニアの孤児たちに心のこもったクリスマスギフト

欧州日産は2005年以来、クリスマスカードの購入と郵送にかかる費用を、ルーマニアの孤児たちを支援するNGO「CAREフランス」が実施する慈善プログラムに全額寄付しています。2005年には人道支援プログラムの一環として、支援対象の子どもたちを医療施設に送り迎えするための小型バス「プリマスター」も2台寄贈しました。2006年も同様の支援を決めましたが、前年に贈った車両がまだ大いに活躍しているため、資金面での援助のみとし、総額5,000ユーロの寄付を行いました。

プロを目指す若きドイツ人デザイナーたちを支援

ロンドンに拠点をおく日産デザインヨーロッパ社では、ドイツのプフォルツハイム大学でデザインを専攻する学生たちに、「2015年のクルマ」を描いてもらうことにしました。次の世代を担うデザイナーを支援し、後押しすることは、自動車メーカーである日産の大切な仕事です。あえて高いハードルをおくことで、有望な若手に早くから実践的でクリエイティブな経験を積んでもらうことを目的としています。

学生たちは外装と内装のデザインにそれぞれ分かれ、4ヵ月をかけてデザインコンセプトを練り上げました。2006年2月に行われたプレゼンテーションの結果、高い評価を受けた9名の学生は翌月にロンドンに招かれ、最終的なプレゼンテーションを行うとともに日産デザインヨーロッパ社の本社を見学しました。学生たちには、日産ブランドが将来何を表現すべきか、グローバルな競争の中で自らをどう位置づければよいのか、という点についても意見を述べてもらいました。

デザイン専攻のドイツ人学生をロンドンの
日産デザインヨーロッパ社に招待

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

英国の乳がん啓発キャンペーンへの参加

英国日産自動車会社は、乳がんの啓発活動を行っている英国有数の慈善団体「ブレークスルー・ブレストキャンサー」を支援しています。2006年5月には、恒例となった報道関係者向けの試乗会を実施。ブレークスルーのトレードマークと同じピンク色に塗った「キャブスター」と「マイクラC+C」を用意しました。

会場では、試乗されるたびに日産がブレークスルーに寄付をするという方法で、最終的に8,000ポンド以上が集まりました。さらに6月までの2ヵ月間、販売店で「マイクラ」が試乗されるたびに10ポンドをブレークスルーに寄付する慈善活動を実施しました。

乳がん啓発キャンペーンのための試乗会を実施（英国）

オックスフォード大学内 日産日本問題研究所にて講演

日産は、英国オックスフォード大学内に1981年に設立した「日産日本問題研究所」において、2006年10月、学生向け講演会を実施しました。日産からは高橋副社長、欧州日産からはコリン ドッジ上級副社長が講師として参加、日産生産方式（Nissan Production Way）や、日産の革新的マネジメントについて、2日間、約120名の学生に向けて講義を行い、国境を越えた教育的交流を実現することができました。

さらに、この研究所には英国日産が寄贈した商用車の「プリマスター」が1台あり、書籍などの配送に利用されています。オックスフォード大学の図書館は全30ヵ所に散らばっており、各図書館の間でやりとりされる書籍の数は年間25万冊にのぼります。日産のクルマが学生や研究者に情報を届ける貴重な足として役立てられています。

オックスフォード大学の学生向けに開催した講演会（英国）

一般海外地域での社会貢献活動

求められる支援を迅速かつ的確に、大規模災害時の初動支援と復興支援活動

大規模災害発生時の支援は、発生直後の迅速な支援も大切ですが、被災地域の生活を再建するための、長期的な復興支援活動も重要です。そのため日産では、被害を受けた現地の実態を可能な限り正確に把握し、本当に必要とされている支援の提供を心がけています。

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

スマトラ沖地震およびインド洋大津波（2004年12月）

災害発生直後に、グローバル本社において緊急被災地支援を決定し、一部を初動支援に、多くの部分を被災地の長期的な復興支援活動に充てました。支援内容の決定にあたり、社員による被災地への視察を実施したほか、現地で活動する諸団体からの情報収集も行いました。

インドでは、被災した子どもたちの精神・心理的支援を行う施設の建設に協力しました。すでにチャイルドケアセンター6ヵ所が完成し、実際の施設運営を行う地域組織に引き渡しました。これらの施設では、5歳までの子どもたちを対象とした教育、給食、予防接種などのプログラムを提供しているほか、両親を対象にしたカウンセリングも行っています。

またタイでは、シャンティ国際ボランティア会との協働事業として、子どもたちの心のケアを目的に、図書運搬、目的地到着時の閲覧に必要な改造を施した車両、「アーバン（日本名：キャラバン）」が移動図書館として活躍しています。この車両は、主にタイ南部の被災地域で利用され、子どもたちや被災者が笑顔を取り戻し、希望を持って復興に取り組めるよう、その環境づくりに役立てられています。2007年1月末現在、走行距離は16,000kmを超え、12,000名以上の方々に、良書に触れる機会を届けることができました。

被災した子どもたちを支援する施設の建設に協力（インド）

子どもたちの心のケアを目的とした移動図書館プロジェクト（タイ）

パキスタン大地震（2005年10月）

グローバル本社で義援金の拠出を決定し、NGO ジャパンプラットフォーム（国際人道支援機関）を通じて、生活援助物資の配給、避難所の設置活動などに役立てられました。

ジャワ島中部地震（2006年5月）

緊急支援として義援金1,000万円を、ジャパンプラットフォームを介して提供したほか、日本とインドネシアにおいて社員募金を実施。集められた社員募金2億4,000万ルピア（約318万円）が直接被災者のもとへ届けられるよう、現地の社員やオーナーズクラブが共同で現場視察を行い、ジョグジャカルタ市の小学校修復プロジェクトに寄付されました。この寄付により、現在までに4つの教室の修復が完成しています。

社員義援金により再建された現地の学校（インドネシア）

これら災害緊急支援にあたっては、グローバル本社だけではなく、各地域本社や各国事務所においても、被災の規模や地域に応じて、もっとも適切な事業所による支援、社員による支援活動や募金などを行っています。

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

中国での社会貢献活動、「日産10年徒歩 シルクロード国際市民徒歩大会」

日産（中国）投資有限公司（NCIC）は、「日産10年徒歩 シルクロード国際市民徒歩大会」を開催しました。10年かけてシルクロード約7,000kmを歩くというイベントです。さまざまな土地を歩きながら中国の歴史や美術に触れるだけでなく、中国の教育や環境について考える機会を提供したり、貧困地域の小学校で寄付活動を行っています。また、中国商務省と中華健康列車基金会が、内陸貧困地域の白内障患者の無料治療を列車病院で行う「健康列車光明行き」イベントに、10万元の寄付を行い、感謝状が贈られました。

内陸貧困地域の白内障患者の無料治療を列車病院で行う「健康列車光明行き」イベント（中国）

サウジアラビアの成績優秀な小中学生を表彰

サウジアラビア東部州の販売店アルジャブル・トレーディング社は2006年7月、アルジュバイル市の公立小・中学校に通う成績優秀な生徒の表彰式を行いました。市内の日産ショールームで開催された式典には、90名ほどの生徒が招待されました。このプログラムは、中東日産会社が2005年から開始したもので、初年度はサウジアラビア国内の優秀な高校生約500名が表彰されました。

アルジャブル・トレーディング社は年間1万台以上を販売する、サウジアラビアの主要な日産ディーラー。こうしたプログラムを通じて、地域社会の経済だけでなく、教育振興にも貢献しています。

アジアで「日産デザインフォーラム“イマジネーションファクトリー”」を開催

日産自動車（株）は、2006年8月末からシンガポールを皮切りにアジア各地でクルマのデザインをテーマとするフォーラムを開催しました。「イマジネーションファクトリー」と名づけた同フォーラムは、地元のデザイン振興団体との共催で実施。日産のデザイナーと現地で活躍するクリエイターが、パネルディスカッションを通じてデザインの新たな可能性を探るというものです。自動車メーカーがこうしたデザイン・イベントを開催するのは、今回が初めての試みです。

会場内には、自動車デザインのトレンドの理解を深めていただくため、日産のデザインに対する姿勢や方針、取り組みを紹介する展示も行い、広く一般に公開しました。このほか国によっては、カーデザイナーや工業デザイナーを目指す学生向けにワークショップを開催し、日産のデザイナーが作品の評価にあたりました。

日産デザインフォーラムの開催ポスター

■ はじめに 1
■ CEOメッセージ 2
■ CSR対談 5
■ 日産のCSR 10
●日産のCSRの発展プロセス 11
●日産CSR重点9分野 17
●日産CSRスコアカード 20
●ステークホルダー エンゲージメント2006 24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
●「日産バリューアップ」進捗状況・2006年度決算概況 26
●コーポレートガバナンス 29
■ ステークホルダーへの価値の向上 36
●お客さまのために 37
●株主・投資家の皆さまとともに 44
●社員とともに 46
●ビジネスパートナーとともに 54
●社会とともに 60
■ 地球環境の保全 71
■ 安全への配慮 100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
●パフォーマンスデータ 116
●事業等のリスク 118
●第三者意見書 119

南アフリカにおける社会貢献活動

南アフリカが抱える社会格差。この是正に少しでも貢献しようと、南アフリカ日産自動車会社（NSA）は地元の経済環境や生活水準が向上するための活動を積極的に行ってきました。中でも、教育、環境、人道支援の分野に力を注いでいます。

そのひとつが子どもたちに通学カバンを贈る「アドバッグ」キャンペーン。これは貧困をなくすとともに、ポリ袋の散乱による環境汚染を減らそうというNSAの独創的な取り組みです。カバンの生地にはNSAの看板をリサイクルしたビニール材を使い、製造は心身に障害を抱えた生徒たちが通う学校に依頼。完成したカバンを再びNSAが買い取り、貧困地域の小学校に配布しています。プロジェクトが始まった2006年には、貧困地域のひとつであるリンポポの子どもたちに合計1万5,000個のカバンを贈りました。いまでは北西州、クワズール・ナタール州、東ケープ州などへも広がっています。このプロジェクトによって雇用の場が広がるだけでなく、多くの子どもたちに通学カバンが行き渡り、ポリ袋に教科書を入れて持ち歩くという習慣もなくなりました。

このほか、南アフリカ産業界の技術力の向上を支援する取り組みとして、300人以上の若者を対象とした「学習者プログラム」を2年前から実施しています。優秀な若者は企業の採用基準を満たす技術力を身につけられるため、NSAのみならず、南アフリカの製造業界全体にとってプラスになっています。南アフリカの多くの学生は、NSAの各部門にインターンとして採用されており、正社員として登用されるケースもあります。このプログラムは南アフリカ政府の技能開発計画の一環として実施されているもので、NSAはこの協力を通じて関係省庁や南アフリカ大学と長期的なパートナーシップを結んでいます。

さらに2006年9月には、現地のトランスネット財団が主催する「フェロフェパ保健列車」の活動に対して、最新鋭の「モバイルアイクリニック（移動眼科診療車）」を寄贈しました。このクリニックは農村地域の学校を巡回し、生徒たちの視力検査を実施してメガネを処方しています。列車だけでなく車両を利用したサービスにより、さらに活動範囲が広がることになりました。

南アフリカの農村を巡回診療するモバイルクリニックを寄贈